

ながめてみよう

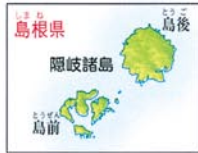
① 中国・四国地方の自然・産業・暮らし

1: 2,200,000 50km

手がかり

①図と下の降水量の図から、気候によって栽培されている果樹の種類が異なっていることに着目してみよう。

各都市の年平均降水量 (1971~2000年)



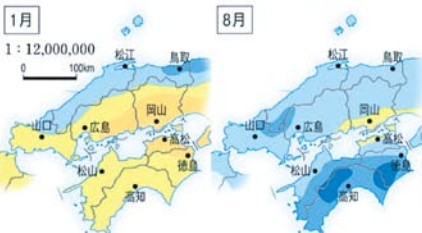
石見銀山 (島根県)



倉吉の町なみ (鳥取県)

中国・四国地方

中国・四国地方の降水量 →P.129-130



地図は語る

日本の地域資料図に新設した「ながめてみよう」は、地方別地誌を初めて学習する生徒が、多面的に地域の特徴を理解できるよう、さまざまな工夫をこらして作成しています。

メイン図の「○○地方の自然・産業・暮らし」では、立体的な地図表現をベースに、鉄道や高速道路などの交通をわかりやすく記載し、産業、生活・文化、歴史、環境の特徴的な要素をイラストなどで入れています。これらは、本来100万分の1地方別の地図から読み取ることができるものですが、初学者にとっては、複数の情報が重なり、記号や線でやや抽象的に表現されているため、ここではイラストなどを用いて親しみをもって学べるような表現にしています。たとえば「中国・四国地方」(p.87)では、平野が少なく山や海で隔てられた地域、海上に無数に点在する島々などの地形の特徴に気づくことができます。そこから、かつては水上交通が中心だった地域内

の交通手段が、本州四国連絡橋の開通後は自動車や鉄道に変わりつつあることがわかります。これらを通して生徒が地方の中核考察を設定し、自ら興味を持つ事項を見つけて自発的に学習を進める、などの活動が想定されます。そのほか、イラストの中には、参照ページを示したものが、他のページを関連させて学習できるようにしています。

また「ながめてみよう」には、「手がかり」や、「降水量」、「断面図」など地域の特徴を裏づける資料を添えています。「中国・四国地方」では、「手がかり」で都市によって降水量に差があることに着目し、「降水量」では、降水量の特徴から日本海側、太平洋側、瀬戸内海沿岸に分けられること、「断面図」から、雨の降り方には地形も影響していることが理解できるようにしています。

本図が新しい地誌学習の「導入」や「まとめ」として活用されることを願っています。(帝国書院編集部)

中国・四国地方(A-B間)の断面図

